マスコミュニケーションゼミナール

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学政経資料センター 公開日: 2011-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 池田, 一之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/10378

≪ゼミナール探訪≫

マスコミュニケーションゼミナール

池田一之

この4月，入室の学生は私にとって8期生ということになります。専任となって2回目の学生です。その彼らはいま，島崎藤村の『夜明け前』を読んでいるはずです。藤村が実父をモデルにして書いたといわれる，この長編小説は1853年から1886年の33年間，つまり近代日本の激動期を舞台にしているわけですが，それは日本の新聞にとっても草創の苦難に満ちた時代でした。現代の若者が，50年近く前に藤村によって発表された『夜明け前』をどう受け止め，とらえるかは興味のあるところですが，84年度のゼミナールもここからスタートしたいと考えております。4月，彼らがどんな読後感をレポートしてくるか，それを読み感想を述べるのが，彼らと私との出会いでもあります。

研究主題は「新聞対権力」です。3年次には「新聞と戦争」「1930年代の報道」などと，ときどきテーマを出しては書かせます。400字詰め原稿用紙5枚がやがて10枚，さらに20枚へと，量も次第にふくれ上がります。彼らも苦吟するようですが，これまでの私の体験では，政経セミナーへの共同執筆，卒業ゼミ論など意欲を燃やし，活字離れ世代とは思えぬ優れた作品が増えつつあります。とにかく他大学のマスコミ・ゼミにない新しい研究の場をつくりたい。自由・濶達の雰囲気を生み出そう，というのがわがゼミ生，私の共通の願いでもあります。1期生が別れぎわに当ゼミナールの発展を祈って寄贈してくれた紫紺のゼミ旗を，ことしも高々とかかげて，頑張ろうとゼミ一同，張切っております。